４年生のみなさんへ　クルリンと　ほしぞらさんぽ　10月号

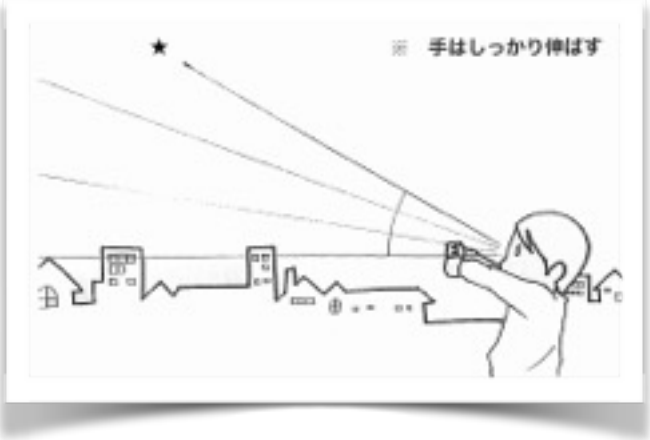
伊勢原市立子ども科学館

10月、やっとほしぞらさんぽのシーズンになりました

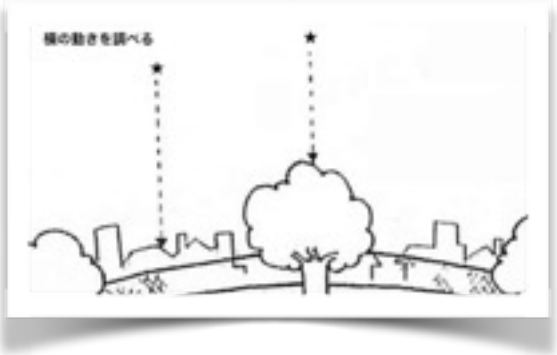
日暮れが早くなって午後７時ごろからほしぞらさんぽができる季節になりました。夜空がすっきりして星がくっきり見えるようにもなりますね。

まず木星と土星を見ることにしましょう。現在やぎ座にいる二つの惑星わくせいは、南の方角にあって明るく見えています。

まず明るい方の星、木星の動きを調べたいです



ね。木星の高さを測る時には「こぶしを重ねる方法」で、こぶしいくつ分の高さかな？と測りますし、横への動きを知るためには、木星からま下の目印になる地上物を探します。１時間たったらまったく同じ場所に立って、木星が動いたかどうか、どちらに動いたか、調べましょう。木星はかんた



んに写真にできますから、地上の風景と一緒に写真にとって１時間後の写真と比べると、動きは確認できます。

10月14日には土星と月が、そして次の15日には木星と月が、すぐ近くに並びます。写真のチャンスですよ。

天頂近くに夏の大三角がいます

はくちょう座がほぼ天頂にありますね。デネブとこと座のベガ、わし座のアルタイルを見つけましょう。８月に見たのとは位置がちがいますね。どうちがうか説明できますか。家族を聞き手にして言葉にしてみましょう。

大三角の近くに小さな星座・いるか座がありますから、じっくり探してみましょう。ちょっと暗いけれど、星座早見盤で見当をつけてから実際の空で探すのですよ。全天で88ある星座は、大きさはまちまちで、おおぐま座やペガスス座のような大きな星座もあれば、このいるか座のような小さい星座もあるのですね。

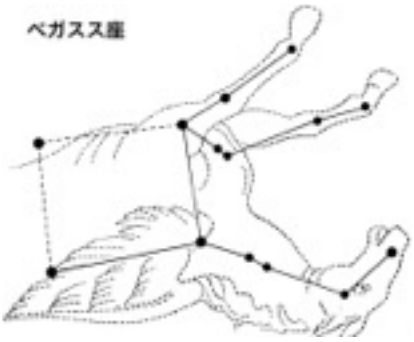
秋の星座を探しましょう

まずカシオペヤ座を探します。星座早見盤で場所の見当をつけておきます。東の空かな？それとも西側かな？　そのあと実際の夜空で早見盤を見ながら探すのですよ。

カシオペヤ座が見つかったらアンドロメダ座の銀河を探しましょう。次ページの星の図で、アンドロメダ座に楕円の銀河の印があります。これを見つけようとしているのですよ。伊勢原のような明るい夜空では双眼鏡があっても見にくいでしょう。でも見えるかどうか限界を確かめるのもほしぞらさんぽの楽しみの一つです。家の前では見えなくても、市内の暗い場所を探してみると見つかるかもしれませんね。図を見て星空のどこに見えるはずか、何度も考えて探しましょう。

次はペガススの四辺形を探します。やはり星座早見盤で探してから、空を見上げて探しましょう。東に顔を向けて、ねころがって探すといいかもしれません。意外なほどに大きい四辺形ですから、

かえって見つけにくいかもしれません。このペガススの四辺形の中には明るい星がほとんどないので、四辺形がきわ立っています。

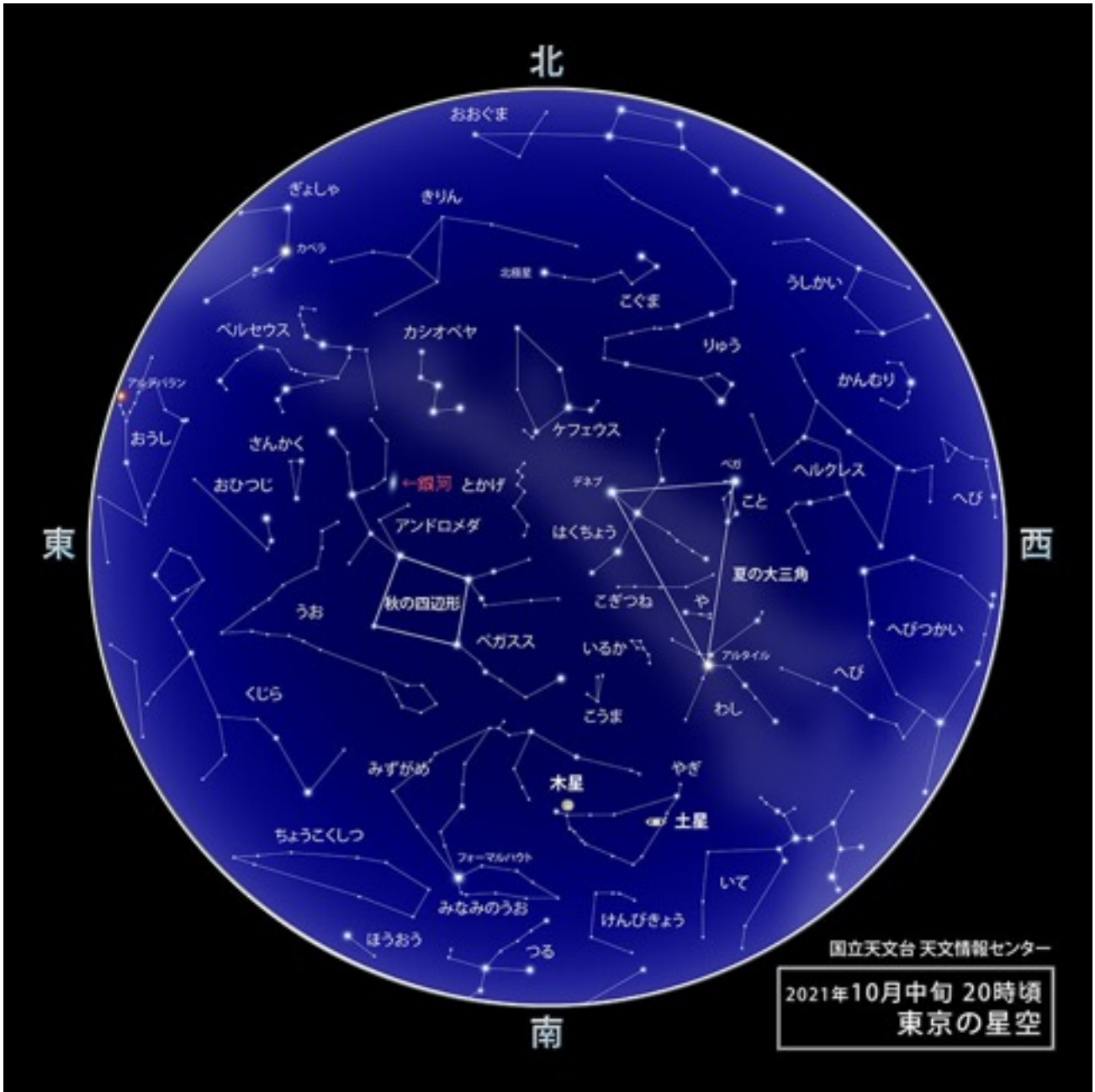


流星群が２つあります

10月りゅう座流星群は10月９日の明け方に流れそうですから、見るなら８日の夜になりますね。流れないこともある流星群なのであまり期待できません。

10月21日はオリオン座流星群で、午後９時前後に極大と予報されています。こちらは見えるはずです。

金星が東方最大離角とうほうさいだいりかく　**10月30日**

金星は太陽系の仲間で、地球のすぐ内側を回っている惑星です。だから見た目にあまり太陽から離れることはなくて、夜中に見えることはありません。夕方の西の低い空に見えている金星を「宵の明星よいのみょうじょう」と言い、太陽から東側に最も離れるので東方最大離角と言います。明け方東の空に金星が見えている時は「明けの明星あけのみょうじょう」と言い、西方最大離角になっています。

金星は他の星々・恒星に比べるととても明るくて、知らないと「UFO？」て思ってしまうほどギラギラ輝いている星です。